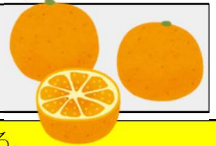


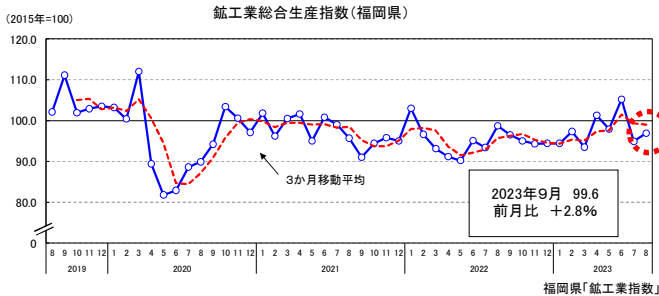
# ふくおかの経済

令和5年11月号



**生産** 持ち直しの動きに足踏みがみられる。

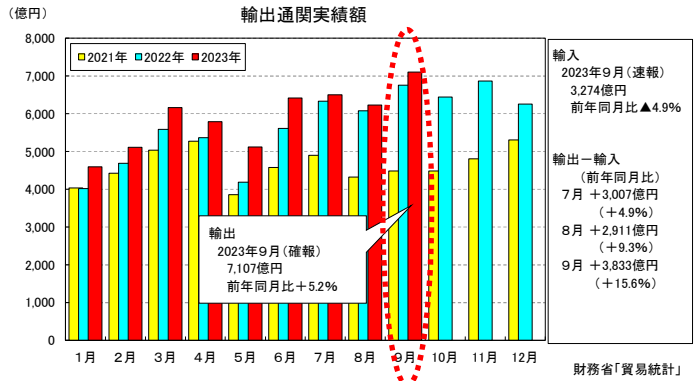
9月の生産指数は輸送機械工業などが上昇したため、2か月連続で前月を上回りましたが、3か月移動平均では前月を下回りました。



鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

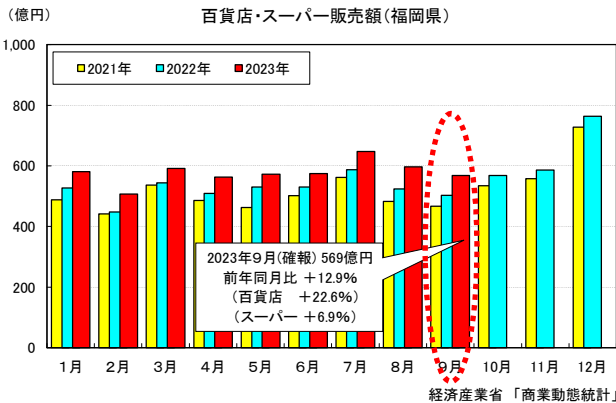
**貿易** 輸出額は、前年同月を上回っている。輸入額は、前年同月を下回っている。

9月の輸出額は、前年同月比+5.2%と前年同月を上回りましたが、輸入額は同▲4.9%と前年同月を下回りました。



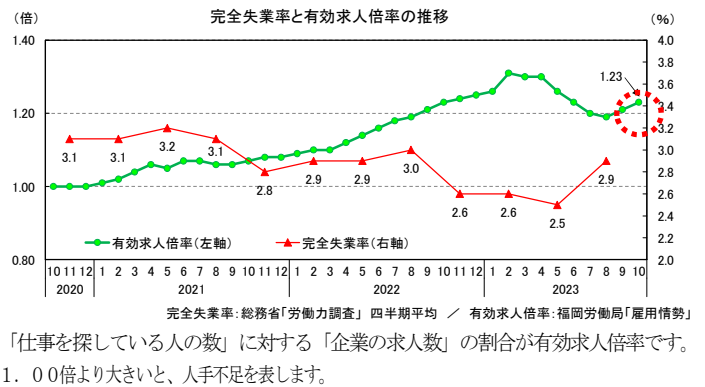
**消費** 緩やかに回復している。

9月の百貨店・スーパー販売額は、24か月連続で前年同月を上回りました。



**雇用** 雇用情勢は、改善している。

10月の有効求人倍率は1.23倍で、前月を0.02ポイント上回りました。

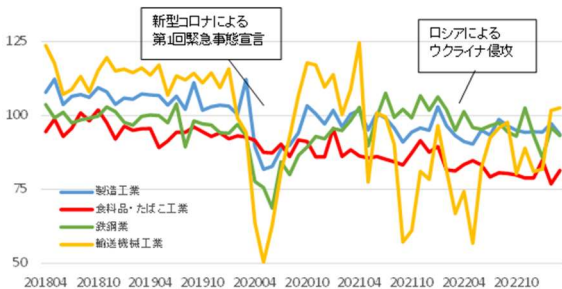


「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

## 今月のトピック 食品製造業の地域における役割について

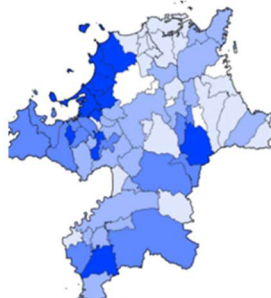
- 本県における食品製造業は、事業所数、従業者数及び付加価値額が、製造業の中で、最も多い産業となっています。
- 令和2年(2020年)の新型コロナウイルス感染症拡大時、「輸送機械工業」、「鉄鋼業」をはじめ製造業全体では、大きな減産を余儀なくされました。一方、「食料品・たばこ工業」は、たばこ工場の閉鎖に向けた減産などにより、減少傾向にあるものの、増減が少なく、世界情勢や景気動向等の影響を受けにくいという特徴があり、県経済の安定化に寄与したとみられます(図表1)。
- 全製造業の従業者に占める食品製造業の割合をみると、大消費地である福岡地域や、産地に近い筑後地域等で高い傾向にあり、地域の雇用の大きな受け皿となっています(図表2)。
- 一方で、食品製造業は、事業所規模や機械化の有無が、製造品によって様々であること等で、労働生産性や賃金が製造業全体に比べて低い傾向にあります(図表3)。食品製造業者は、農林水産物の重要な引き受け手ともなっており、地域の持続的発展のためにも、食品製造業の労働生産性向上が求められます。

図表1 鉱工業生産指数(福岡県)



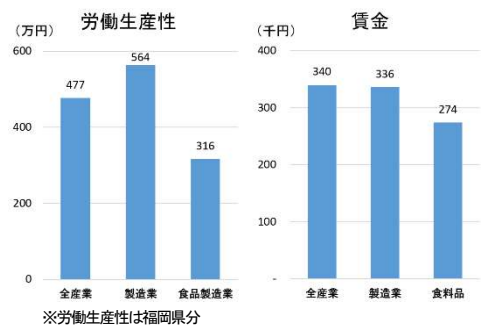
出所: 県調査統計課「鉱工業指数」

図表2 全製造業の従業者数に占める食品製造業の割合



出所: 県調査統計課「令和3年経済センサス-活動調査(確報詳細版-福岡県分)」

図表3 労働生産性と賃金



※労働生産性は福岡県分

出所: 総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」、厚生労働省「賃金構造基本統計調査」